

---

# **実録！働く女の婚活日記**

相原ミヤ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

実録！働く女の婚活日記

### 【Zコード】

Z9561Z

### 【作者名】

相原ミヤ

### 【あらすじ】

結婚したい。周りが次々と結婚している中、仕事一筋の私は決意した。よし、婚活をしよう。婚活のために、まずは決意して宣言しよう。結婚するため毒を呑みながら努力する、働く女の婚活日記です。

まずは決意して宣言しよう。

結婚したい。

結婚したい。

ああ、結婚したい。

つぐづぐ思う。

ああ、結婚したい。

結婚が一番なわけじゃない。でも、幼い頃から信じていた。

24歳で結婚して、25歳で母になる。

時が来れば、自分にも王子様が現れると信じていた高校時代。辛い恋を経験した専門学校時代。そして、社会の流れに追われた最近数年間。

気づけば、幼い頃の人生計画は狂っている。

今日も一人で家に帰る。  
ポストに一通の封筒が入っていた。

結婚式の招待状。

なんともめでたい連絡に、私は一つ溜息をついた。

今年で七回目の結婚式。友人代表の挨拶は今年三回。生まれた友達の子供は三人。

「祝儀貧乏であるんだね。  
そんな笑い話はもう沢山だ。」

別に結婚が一番なわけじゃない。でも、なんだか寂しい気持ちになる。友達よりも彼氏を選択し、友達よりも旦那や子供を選択する。私にとって、友達はいつも一番なのに、友達にとって私は一番、三番とみるみる降格していく。

（結局、私は何番？昔は、困ったときはいつも駆けつける。そんな仲だったのに。私はいつでも、駆けつけるよ。もちろん、今でも同じだよ）

そんなこと、言えるはずがない。笑顔で友達の幸せを祈り、断られるのを知りつつ笑顔で遊びに誘つのだ。

「ああ、嬉しい。」

今の日々に不満はない。ようやく仕事にも慣れて楽しくなってきただ。お金のある自由もある。趣味に費やす時間もある。

（結婚なんて、自分の時間がなくなるだけだよ）  
高らかに笑う友達。もちろん、旦那持ちだ。

藤田千香子。年齢二十五歳。結婚にはまだまだ早い、と言う人もいるけれども、私は結婚したい。結婚したい。とにかく、結婚したい。

なぜって？

一人じゃ寂しい。

「のまま、私は一人で生涯を終えるのではないかと、心配になる。

そのためには、最近はやりの婚活が必要だ。出会いの少ない仕事をしている私にとつては尚のこと。そして、仕事ばかりしている私にとつては、必要なこと。それが「婚活」だ。

「結婚したい」という気持ちに揺るぎは無いけれども、日々が楽しくてなおざりになつて、気づけば一年が終わっている。そういうことにならないために、私は大きく宣言した。

「私、婚活します！」

レッツ婚活。まずは決意して宣言しよう。

## まやは決意して宣誓しよう（後書き）

出会いが無い。理想が高い。それでも結婚したい。そんな女性の気持ちを、笑いを交えて書けたらと思っています。気長にお付き合いください。

## 客観的に自分を評価しよう

婚活をすると、まずは決意して宣言したら、客観的に自分を評価しよう。

私、藤田千香子。

年齢25歳。

職業、介護福祉士。

彼氏いない暦……2年半。

中学、高校とバレー部に所属してキャプテンとしてチームを率いた。高校を卒業した後は、介護福祉士になるために専門学校に通い、介護福祉士になった。

幼い頃からバレー一筋で生きてきた私は、自他共に認める体育会系。可愛い女の子を演じることは出来ない。

職場は有料老人ホーム。介護負担がどんなに大きな人でも受け入れるのが、うちの施設長のモットーだから、必然的に仕事の量は多くなる。けれども、元来お年寄りが好きな私にとって苦はない。月に5～6回ある夜勤も、何のその。サービス残業も何のその。おじいちゃんに怒鳴られようが、おばあちゃんに叩かれようが、何のその。自分より10キロ以上重い人を抱えて車椅子に乗せる。鍛えてもないのに、立派な上腕二頭筋が完成している。

気づけば、どんな状況にも屈しない強靭なハートと、度胸を兼ね備えた一流の介護士になっていたのだ。

高校の時は、部活の仲間やクラスの仲間によく言われていた。

「きっと、チカポンが一番に結婚するだらうね

根拠のない評価。

「きっと、チカポンが一番に子供を生むよ

せりに、根拠のない評価。

「チカポン、可愛いもん」

こんな女同士の評価に惑わされちゃいけない。第一、私は一人身。そうやって私を評価していた仲間が次々と結婚していくのだ。そう、客観的に自分を評価しよう。

私は一流の介護福祉士。仕事一筋で恋愛なんて遠くにある。不規則な仕事をしているから、出会いなんてあるはずが無い。力仕事をしているから、たくましい。簡単には弱音をはかない。女社会で生きているから、メンタルも強い。その上、バレー一筋で生きてきたから、面倒なほどの真面目人間。

これが私。

客観的に自分を評価して分かる」と。

「女として、可愛くない」

自分でも分かる。男は馬鹿だから、結局は可愛くて弱い子が好きで

しょ。私は間逆。背も高いし、強いし、たくましい。男に甘えるような、女子力を持ち合わせていない。

これが私。

この私を受け入れてくれる人を探すのか、この私を変えるのか、どちらが早いのか私は頭を抱えた。

客観的に自分を評価をしたら、男が好む女を観察しよう。

## 男が好む女を観察しよう

男が好む女を観察しよう。

モテない女子である私は、男が好む女を観察して、女子力とは何なのか観察しなければならない。

観察対象は私の天敵「江藤のぞみ」だ。この女、とにかく男にモテる。分かってる。ただの僻みだつてことも、負け犬の遠吠えだつて事も。でも、悔しいから、仕事の時の江藤のぞみの様子を観察してみることにした。

観察対象、江藤のぞみ。

年齢、27歳。

職業、介護福祉士。

口癖「ねえ、ねえ、どうしたら良いかな」

男が好む女を観察しようと決めた翌日、私は職場で江藤のぞみの姿を探した。私が勤める有料老人ホーム「ひまわり園」では、六十人の高齢者が入居している。私は働き始めて四年目の介護福祉士。今日は早出なので、朝七時から勤務についた。朝の起床の介護をして、身支度の手伝いをして、食事の介助を行う。朝食が終わる八時半に、日勤で出勤してきた江藤のぞみの姿を見かけた。

悔しい。

私は身長168センチメートルの長身の持ち主。対する江藤のぞみは身長155センチメートル。27歳に見えない童顔。これが、男が好む女の外見だ。

外見だけじゃないはず。

私は江藤のぞみの一挙手一同を見逃さないようつに観察した。

朝食が終えた入居者の方の歯磨きを手伝い、排泄の介助をする。オムツを替えて、身体を拭いて、服を着替える。働き始めてから、仕事が苦に感じたことは無い。

もちろん、寝たきりの人の介護には腕力が必要になる。

「おいしょー！」

なんて、気合の掛け声をかけながら、私は介護を続ける。介護をしながらでも、入居者の方との会話は忘れない。

私がそんなことをしていると、遠くから江藤のぞみの声が聞こえた。

「ねえ、ねえ。ちょっと、あの人重いから手伝ってくれない？」

私の耳に江藤のぞみの不快な声が残る。私は入居者の方に布団をかけて、声をかけた。

「もう、きれいになつたよ。お疲れ様」

入居者の方には礼儀正しく、敬語を使って。というのが、施設の基本方針であるけれども、24時間共にしていると、家族のような気持ちが芽生えてくるのは「愛嬌だ。

廊下に出た私は、観察対象の江藤のぞみを探した。

江藤のぞみを手伝つてているのは、職場の若手男子「山田弘一」だ。この山田、かなりの馬鹿者で、江藤のぞみの頼みを断れない。なぜ、そのような関係になれたのか、私は秘訣を探した。それが、男が好む女の姿だから。

「ねえ、ねえ。あの人重くて無理だよ」

江藤のぞみが言った。その言葉で、私はピンときた。

もし、私が同じような状況だったら……。

「おいしょー！」

の一言で、一人で片付けようとしてしまう。そして、身体が大きな私は、一人で片付けてしまう。

「ねえ、ねえ。ちょっと、こっち来て」

なんて、言葉、口が裂けても言えない。さすが、私の天敵「江藤のぞみ」だ。

重たい入居者様を前に「ねえ、ねえ。どうしたら良いかな。一人で出来るかな？」と小首をかしげて。それが、愛され女の秘訣。ついでに、軽いボディータッチがあれば文句なし。

男は弱い女を好む。私は今日、それを学んだ。

キーワードは「ねえ、ねえ。ちょっと助けてくれない？」  
これで行こう。

婚活には男に好かれることが必要。だから、私は醜くても、腹立たしくても、男に好かれる女「江藤のぞみ」の真似をすることを決めた。

男に好かれる女になろう。男が好む女をしてみよう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9561z/>

実録！働く女の婚活日記

2011年12月31日16時01分発行